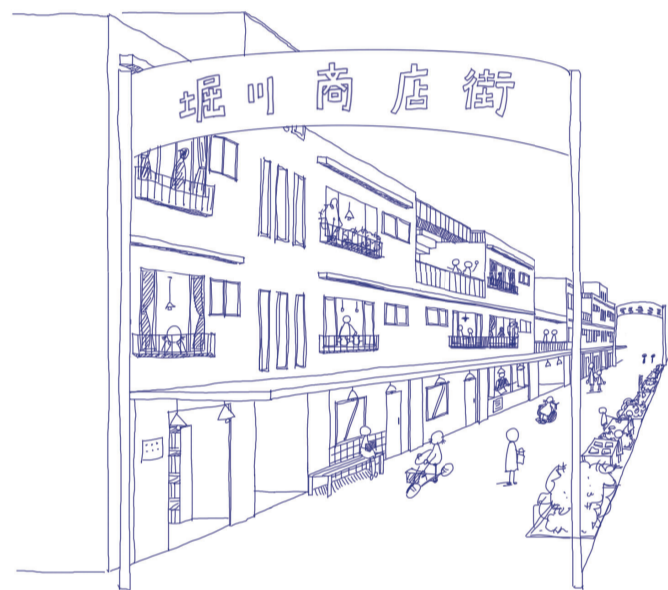


ニワのすゝめ



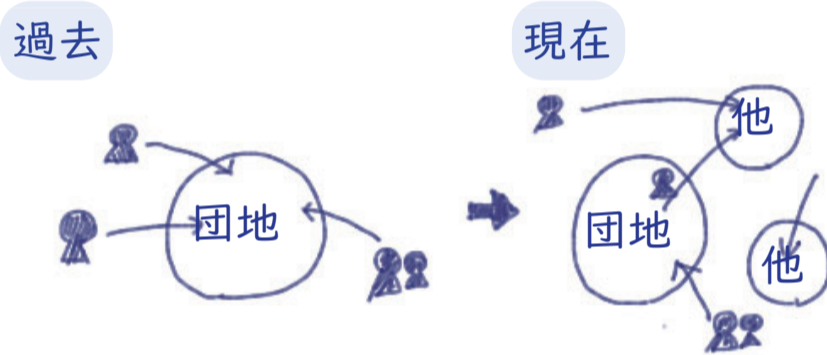
設計趣旨

人と人の距離を適切に保ちながら、ニワでの生活や住民同士のコミュニティを育む団地。昔のような盛り上がりを取り戻しつつ変わりゆく時代に順応していくような古くも新しさを感じられる団地再生を提案。



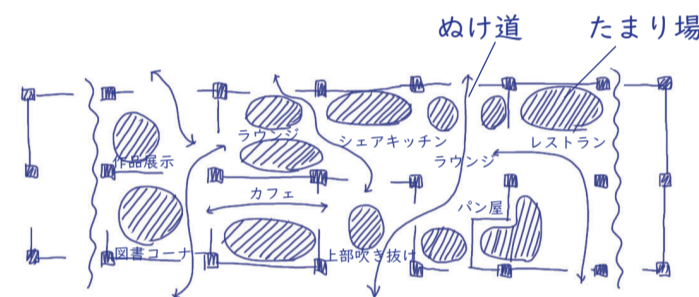
1 暮らしの中心を団地へもどす

団地が完成した当初堀川団地は街の中心的存在であった。現在はどうかろう。昭和はモノを直接売買する行為自体が街を華やかにすることにつながっていた。しかし近年ではネットショッピングなどが増え、モノを売買する場所を増やすだけでは街を豊かにすることはできないと感じる。団地内で人と人が関わりあうようなサービスを提供できる場所として生まれ変わらせることで、暮らしの中心を団地に戻す。



2 日常を共有する

1階はふらっと宿題をやっかえる、すこしだけパソコン作業をやってみるなど、年齢も性別も違う人たちが関わりあうことができる空間。路地のような1階の室内空間で生まれたたまり場は新たな時間共有の場となる。固定されたコミュニティが新たに広まる場として2階の習い事室では地域の子供や大人が教えたり教えてもらったりすることができる。1日を少しでも多くの人と共有することで生まれる地元愛や仲間意識が地域コミュニティの活性化、再生に繋がる。



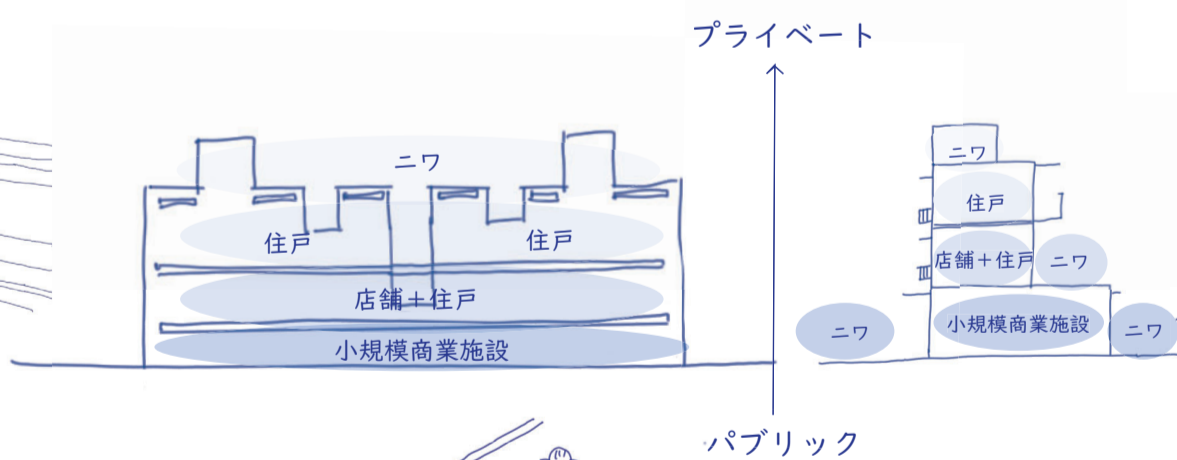
3 団地既存のニワ

堀川団地はRC造に町家が組み込まれている建物である。団地内の住戸には通りニワを模したものがあり住戸同士が連担することにより発生したバルコニーも存在する。昔の堀川団地での交流の手法は2階のバルコニーや屋上で洗濯物を干している人同士がコミュニケーションをとること。



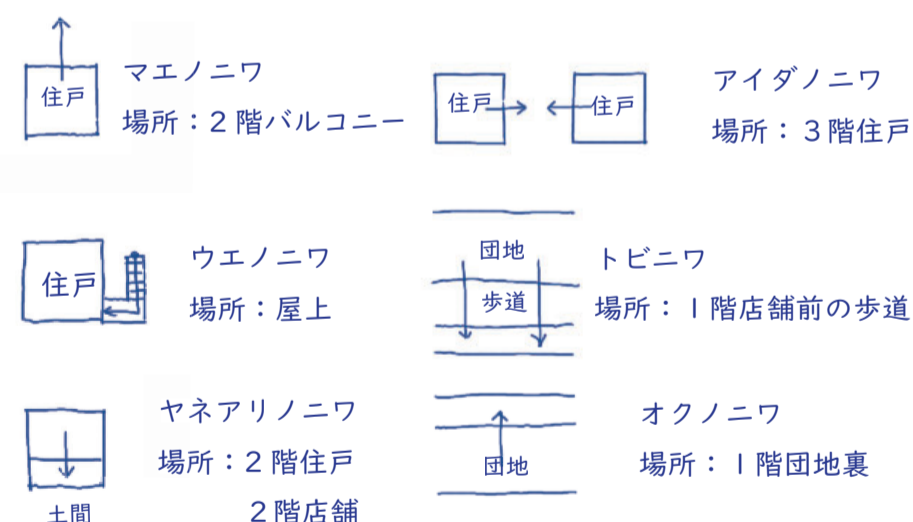
4 “新しい”ニワ

今と昔では交流の頻度も性質も変化してきている。機能を完全に復元しても活かされずにおわる。昔のニワの使い方を参考にこれからの世代でも使える新しいニワを提案。コモンスペースであった空間をさらにプライベートな空間やパブリックな空間へと変化させる。自分だけのニワをつくることで気楽に自分のコミュニティを広げることができる。上下の交流空間に団地を使う人(住人・外部の人)のグラデーションをつけることで完全に空間を分けることが無くなる。



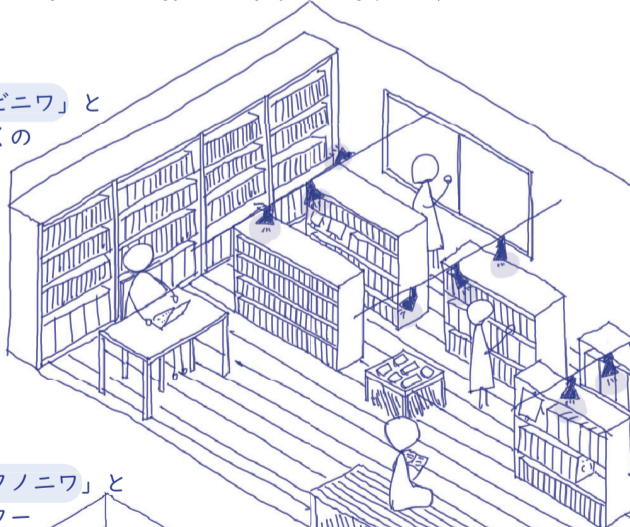
5 発生させる6つのニワ

町家を構成する上で大切な要素とされるニワに名前を付け、新しく意味づけを行った。個人でも使うことのできるようなマエノニワとして計画。減築することによって生まれた空間にはアイダノニワ、住戸の中は半屋外のヤネアリノニワ、個人で使える屋上はウエノニワ、一階の道路側にある商業スペースはトビニワ、裏側の路地空間は裏のニワとして名づけた。



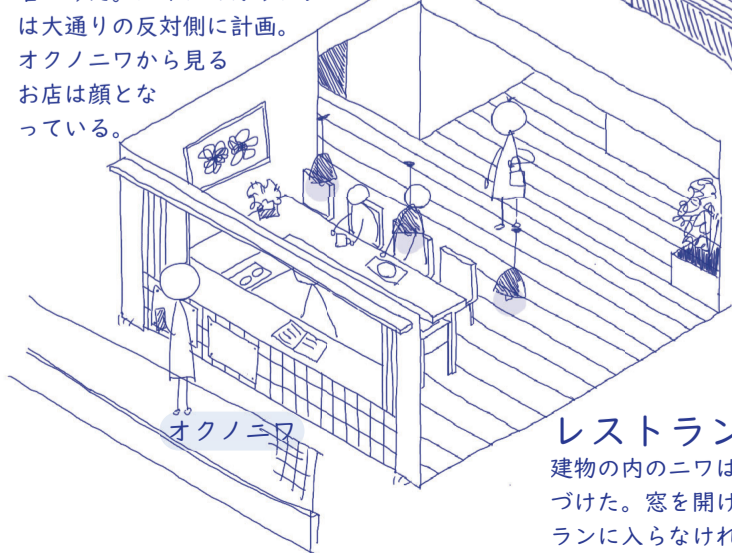
歩道にもお店

団地の前にある歩道は「トビニワ」と名づけた。昔は歩道でも多くのコミュニティが広がっていたため現代で復活させ団地を盛り上げる



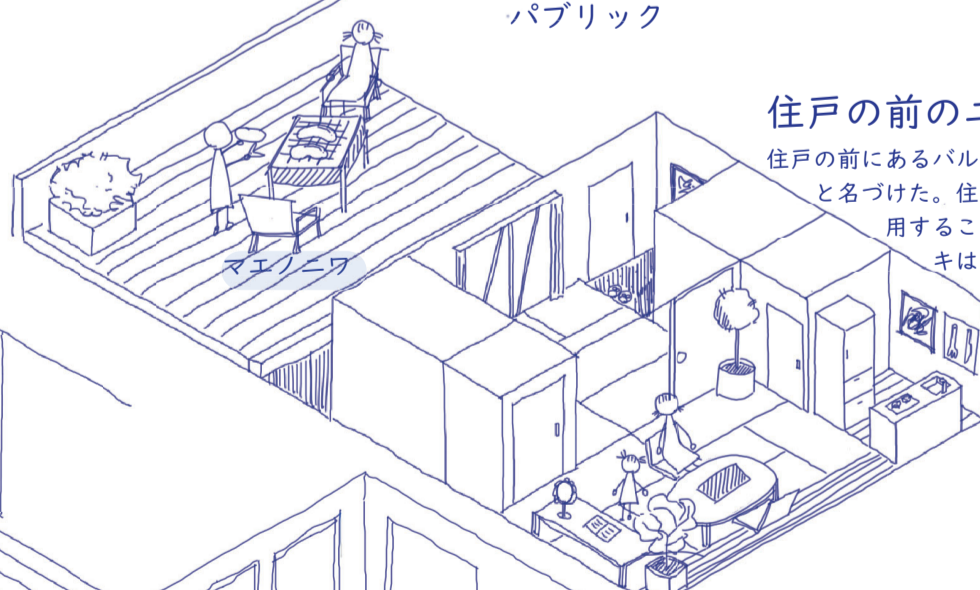
裏の通りのニワ

建物の裏にあるニワは「オクノニワ」と名づけた。メインのカウンターは大通りの反対側に計画。オクノニワから見るお店は顔となっている。



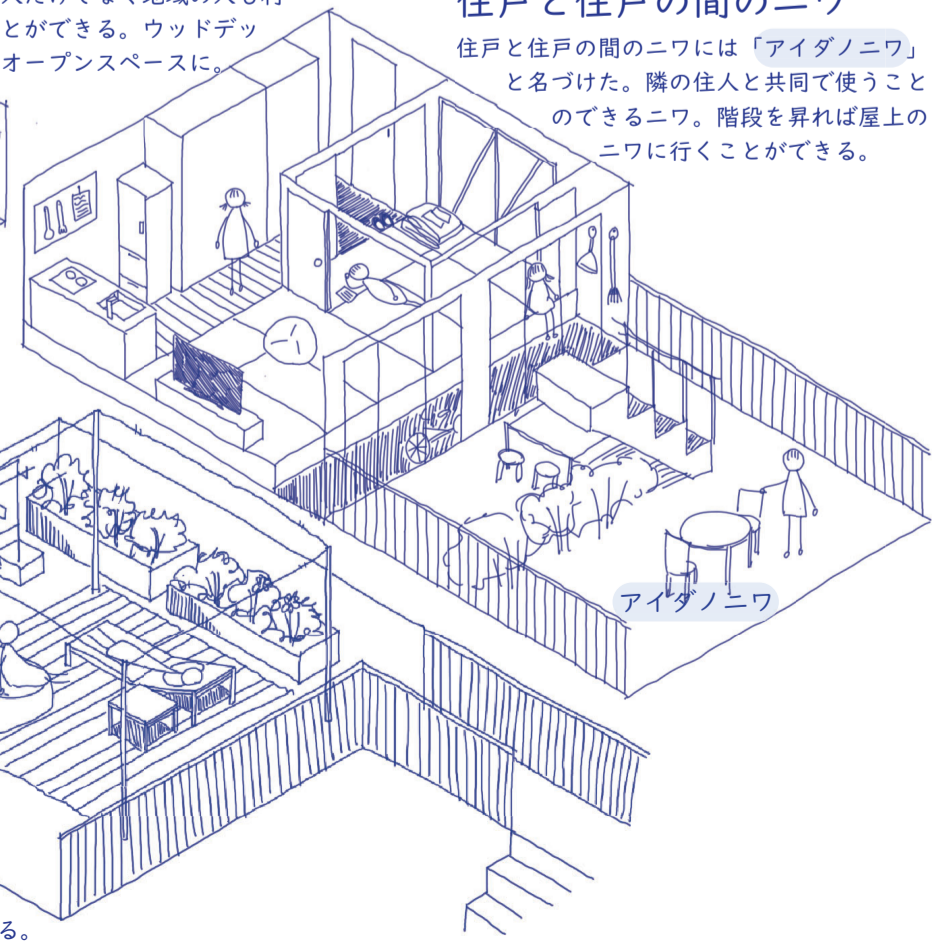
レストラン内のニワ

建物の内のニワは「ヤネアリノニワ」と名づけた。窓を開けると通風を確保でき、レストランに入らなければここにはたど着くことができない。



住戸の前のニワ

住戸の前にあるバルコニーには「マエノニワ」と名づけた。住人だけでなく地域の人でも利用することができる。ウッドデッキはオープンスペースに。



住戸と住戸の間のニワ

住戸と住戸の間のニワには「アイダノニワ」と名づけた。隣の住人と共同で使うことのできるニワ。階段を昇れば屋上のニワに行くことができる。

一番上のニワ

3階住戸のアイダノニワからのぼって見えるのは「ウエノニワ」と名づけた。住人だけのみのプライベートスペース。自分のために使うことや他人を招き入れることもできる。

ウエノニワ

3階住戸のアイダノニワからのぼって見えるのは「ウエノニワ」と名づけた。住人だけのみのプライベートスペース。自分のために使うことや他人を招き入れることもできる。